

各 位

会 社 名 ジェイ・エスコムホールディングス株式会社  
 代表者名 代表取締役会長兼社長 丁 廣鎮  
 (JASDAQ・コード3779)  
 問合せ先 IR部長 福菌 雅士  
 (電話 03-3507-6350)

## 平成21年3月期通期（連結）業績予想の修正に関するお知らせ

平成21年3月期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）の業績予想について、平成20年10月31日付当社「平成21年3月期第2四半期決算短信」にて公表しました業績予想を下記のとおり修正いたします。

### 記

#### 1. 平成21年3月期 連結業績予想の修正等

通期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	1,488	△159	△154	△149
今回修正予想（B）	620	△170	△155	△150
増減額（B－A）	△868	△11	△1	△1
増減率（%）	△58.3	－	－	－
（ご参考） 前期実績（平成20年3月期）	326	△274	△275	△266

#### 2. 修正の理由

当社グループは、これまでM&Aや業務提携による事業の拡大を行なうことにより、収益力の改善に努めて参りました。今年度におきましては、株式会社ウエルネスの全株式を取得し連結子会社としたほか、株式会社モール・オブ・ティーヴィーの株式の一部を取得し持分法適用関連会社としました。その後も引き続き、M&Aや業務提携の今年度中の案件成立を目指して参りましたが、当初より当第4四半期の大型案件として進めてきたM&A案件の対象企業と債権者との折り合いが未だついておらず、合意を今年度中に見出す見通しが見えないことがほぼ明らかになったため、今期中のM&Aが困難であると判断いたしました。その結果、期初時点において今年度中に成立を見込んでいた本件M&Aによる業績寄与分として、売上高610百万円、営業利益1百万円を下方修正するに至りました。

教育事業につきましては、昨今の経済動向、学習塾を始めとする教育ビジネスの業界動向を分析し、新商材の開発、制作を行なった場合の収益試算をした結果、今期は新商材の在庫リスクを抱えるビジネスをすべきでないという判断をいたしました。これに伴う新商材売上不足部分を補うため、企業教育コンサルティングの販路拡大を行なって参りましたが、営業要員の不足などの理由により現段階で売上に結びつけることができず、通期売上予想88百万円を40百万円に修正いたします。

衛星放送事業につきましては、番組視聴者数が伸び悩んでいる状況から、通期売上予想290百万円を280百万円に修正いたします。

商事及びその他事業につきましては、株式会社ウエルネスが連結子会社となったことにより、前年同期比では理美容関連商材が売上に貢献しているものの、当社グループの内部統制基準に適合する営業管理体制や流通システム体制への見直しに時間を要してきたことから、当初想定した販売活動が不十分であったため、理美容関連商材売上が当初予想より低迷し、通期売上予想500百万円を300百万円に修正いたします。

営業利益につきましては、販売費及び一般管理費は概ね計画通りに推移しているものの、売上高の下方修正による影響から、営業利益予想を△159百万円から△170百万円に修正いたします。

また、経常利益及び当期純利益につきましては、当社の持分法適用会社である株式会社モール・オブ・ティーヴィーの業績が前回予想より好調なため、持分法による投資利益が当初予想に比べ10百万円多い15百万円を見込めることから、経常利益予想は△154百万円から△155百万円、当期純利益予想は△149百万円から△150百万円と若干の修正に留まる見通しです。

なお、個別業績予想につきましては、概ね計画通りに推移しており、平成20年5月9日付「平成20年3月期決算短信」にて公表しました当初の業績予想に変更はありません。

※ 業績予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以 上